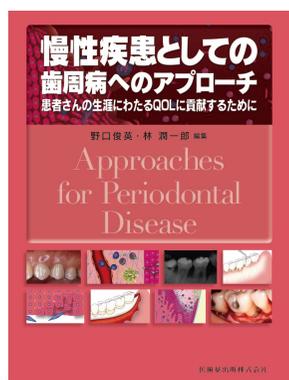


患者さんとともに歩む歯周治療を  
わかりやすく網羅した待望の書！



### 慢性疾患としての歯周病へのアプローチ

患者さんの生涯にわたる QOL に貢献するために

野口俊英・林 潤一郎 編

A4判/252頁 定価：本体 9,000円+税  
医歯薬出版（2014年2月）

池田歯科クリニック

評・佐藤昌美（歯科衛生士）



最近、歯周病専門医を探して当院に来院される患者さんが多くなりました。その方たちは皆、「歯周病を治したい」と言われます。私が歯科衛生士になりたてのころは、「歯周病」という言葉を使う患者さんはまだほとんどいませんでした。このように近年、歯周病が社会的に広く認知されていることを感じます。私たちが歯周病を治したいと願う患者さんにかかわるには、歯周病や歯周治療を正しく理解していかなくてはなりません。私が本書を手にとったのは、「歯周病は慢性疾患であること」「歯周治療は生涯におよぶこと」「歯周治療は患者さんのQOLに貢献するために行われること」など、歯周病と歯周治療を学ぶために大切なことがタイトルに含まれていたからです。

本書には、歯周治療の基礎や最新の知見をはじめ、エビデンスや適切な治療方法までが書か

れています。そこからは執筆者の諸先生方の臨床経験も読みとれます。著者の野口俊英先生は、「生涯を通じて患者一人ひとりの口腔をサポートすること」「国民のQOLに貢献すること」が歯周治療の目的であると考えられています。また、「本質的には“抜くべき歯”はない」とも述べられています。このような歯の喪失を防ごうとする情熱は、歯周治療の原動力になるのではないかと思います。

本書は、まず歯周治療に対する疑問を示し、症例を追いながら解説する形式をとっています。特に、「歯周病は治るのか」「治療（治る）の定義」は、正しく理解しなくてはいけない内容です。もし、言葉や言いまわしを難しく感じるなら、歯科医師に解説してもらいながら読み進めるとよいと思います。

目次は「歯周病はなぜ慢性化するのか」「治療計画の立案」「その歯は抜くべきか」といった項目で構成され、歯周治療について知りたい答えが一目でみつけられるようになっています。また、各章のビジュアルストーリーでは、最新のエビデンスがわかるように工夫されています。そしてコラムは、諸先生方の臨床での苦悩が感じとれる、温かな人間性あふれる内容です。学生時代に『ラタイチャーク 歯周病学』という本を読み、「なんてきれいな外国の本だろう」と思いました。本書を読み終えて、当時の気持ちが蘇ると同時に「日本の歯科医師が書いた、わかりやすく、読者とともに歯周病へのアプローチを考える、こういう本を待っていた」と感激しました。

本書は患者さんとともに歩いていくなかで生じる疑問の答えを導いてくれる良書であると思います。ぜひ一人ではなく、仲間といっしょに読んで、臨床に役立ててください。